

実践 3

顧客要求を形にする 「寧楽システム」における 品質状況の見える化

ダイワ精密プレス(株) 市川 勝*

「寧楽システム」とは当社が培ってきた知識・技術・経験に加え、人的・組織的ネットワークを駆使する当社独自のソリューションシステムである(図1)。

寧楽システムにおいて最も大切なことは、テーマに従って想像力を駆使し、バラバラになったものを統合することに置いている。一見バラバラのように見えるモノを、テーマに合わせて関連づけることにより、新しい方法が見つかるという経験は多々ある。この発想法を「寧楽システム」の中

核として、新しい価値創造の方法論へと発展してきた。本稿では、品質状況の見える化に向けた寧楽システムを用いた事例を紹介する。

品質状況の見える化

当社社長の発案により、「すべてのモノが見えるようにし、全員が同じ認識を持って問題解決に当たれ」という指示の下、QCD要素のうちまずはQ(品質)から取り掛かった。当社も当然ながら、顧客クレームや工程内および協力工場で発生した不適合品に対し、掲示板を用いて不適合品の発生状況を発信していた。しかし、この方法には

* (いちかわ まさる)：執行役員製造グループリーダー
〒630-8141 奈良県奈良市南京町2-283
TEL:0742-62-1311 FAX:0742-62-2313



図1
寧楽システムのイメージ